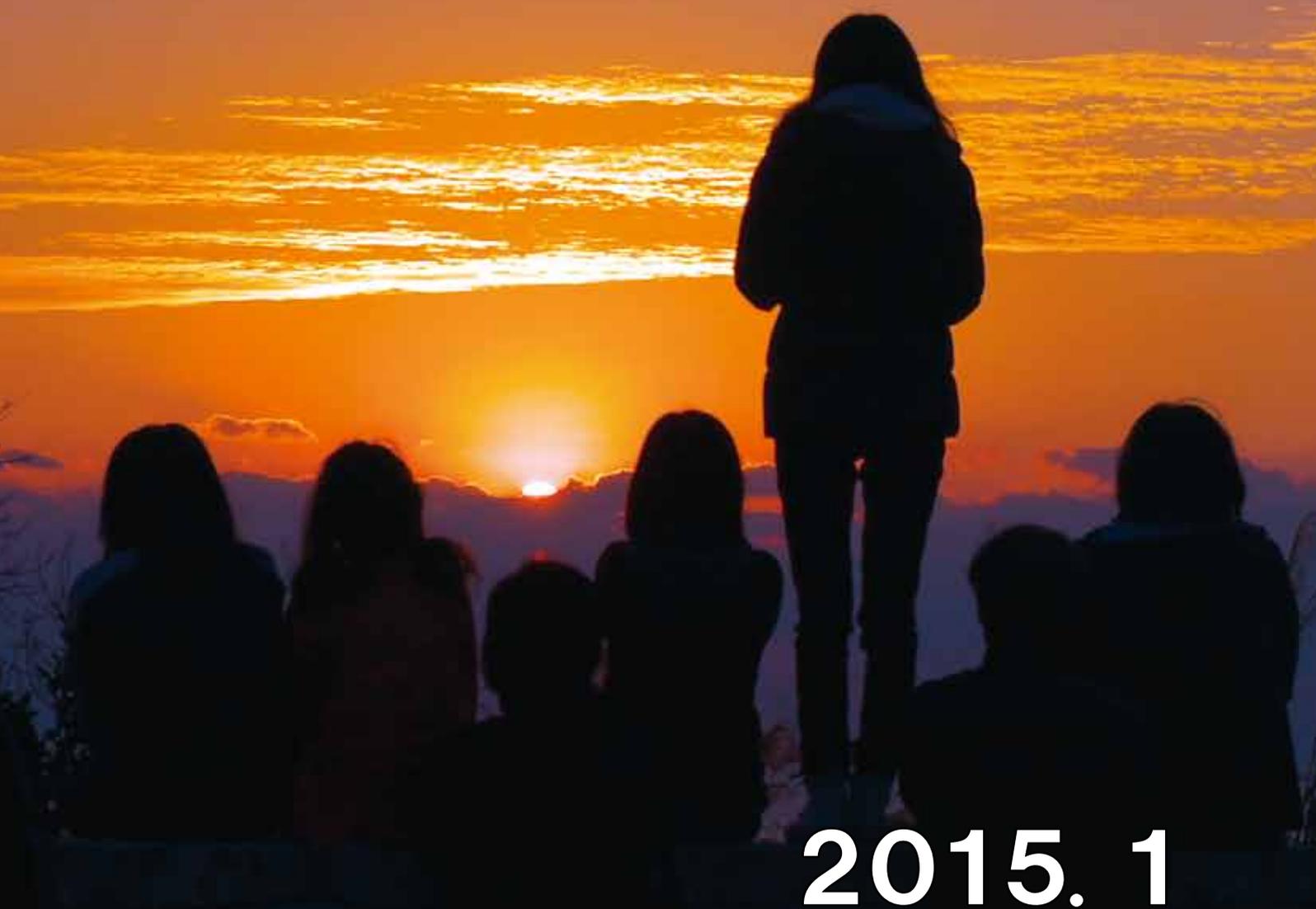


# ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

## 第17号



2015. 1



# 年頭にあたって ～これからの10年を見据えて～

院長 杠 岳文

新年あけましておめでとうございます。

新しい年2015年が、皆様にとりまして、幸多い年になることをお祈り申し上げます。

国立病院機構も本年4月からは新法人に移行します。2004年4月に旧国立病院、療養所が独立行政法人化されて以後、これまでの診療機能の拡充に加え、経営の健全化が求められ、激動の10年を経てきました。新年を迎えたこの機会に、これまでの10年を振り返るとともに、さらにこの後10年間の我々の目標を見据えたいと思います。



まず経営面では、全ての職場職員が経営意識を高め一丸となった取り組みによって、2008年度以後は当院も経常収支を黒字に転換することができ、経営面でも「独立(採算)」を成し遂げることができました。この間、診療面でも医療観察法病棟の開棟、とくにその運営マニュアル、CVPPP(包括的暴力防止プログラム)等ソフトの開発、子どもの心の診療拠点病院事業、認知症疾患医療センター指定、依存症治療拠点機関指定など、精神科救急、動く重症心身障害者、身体合併症、治療抵抗性の各専門領域とともに我が国の精神科医療の中核病院として機能の充実を図ってきました。

建物も、昨年3月に重症心身障害者と児童思春期の計3病棟、その後7月に急性期・アルコール薬物依存症病棟が新病棟となり、本年6月にはさらに治療抵抗性、身体合併症、認知症の2階建て4病棟を新築開棟予定です。

この様に、振り返ればこの10年間をかけ、診療、経営、建物といった面で病院の土台ができました。

これからわれわれの向かう医療の基本は、他の設置主体ではできないモデル医療や先進的な取り組みに挑戦すること、あるいは他の医療機関の補完的な機能を果たすことにあります。言い換えれば、我々は常に「存在することに意義を求めず、存在を求められることに意義を見出す」民業圧迫のない存在であらねばと思います。

ハード面では、本年5月末の4病棟が竣工によって病棟建設は終了し、精神科救急と精神科専門医療の入院治療の整備が整います。ただ、外来・



肥前精神医療センター全景



現在工事中の治療抵抗性、身体合併症、認知症病棟（本年6月開棟予定）

管理棟から南病棟までの中央廊下が約 450メートルになり、急性期型の病院としては不適です。今後 5 年以内を目途に、外来・管理棟とサービス棟を南病棟群と北病棟群の間で、西五救急病棟に隣接する土地に建設することを計画しています。

一方、これによって、病院敷地の北側 1/3 位の診療関連の機能が無くなりますので、残る外来・管理棟と情動行動障害センター部門、旧看護学校とその宿舍跡地に、使用できる建物の一部を活用しながら「大学院大学誘致」を計画しています。

肥前精神医療センターは 28 万平米の広大な敷地と、いくつかの病棟集約は行いながらも精神科医療のほとんどの分野をカバーするオールラウンド型の診療機能を維持してきました。その特徴を教育の場として活かし、2010 年に医師養成研修センターを開設し、毎年多くの若手精神科医師育成に努めてきました。今後、その対象を心理士、作業療法士、精神保健福祉士、精神科看護師、保健師など多職種の精神科高度専門教育と研究に広げていきたいと考えています。

超高齢社会となり、なお高齢化が進む我が国で、身体機能の維持、治療とともに認知、精神機能の維持と治療はさらに重要性を増すと考えられます。医療、介護、福祉とその連携、予防をテーマにした様々なモデル事業と研究を地元地域の協力も得ながら行うことができれば、障害を持った方、援助する人、若い学生、そして地域住民の方が集う大学と融合した新たな精神科病院ができるのではないかと考えています。病院敷地内にある公園、喫茶店、コンビニ、レストランを様々な立場の方たちが共同利用できます。また、病院には主要駅からバスが定期運行されています。

以上が、現時点の「大学院大学誘致」計画の概要ですが、今後このプロジェクトチームを立ち上げ、より具体的なプラン策定を行うとともに、我々の将来像を共有できる学校の誘致を目指したいと思います。職員の皆さんには、多職種に及ぶ精神科高度専門教育と研究を誘致した大学スタッフや学生と協力して進めるべく、質の高い臨床教育の場を目指し一層の研鑽を期待します。

将来構想が具体化し始めるであろう 2020 年は、奇しくも東京オリンピックの年でもあります。皆様には、東京オリンピックとともに精神科医療の新時代を開く肥前精神医療センターにもご期待、ご支援頂ければ幸いです。



# 第3回佐賀県認知症県民公開講座

認知症疾患医療センター  
看護師長 横田 研治

テーマ

“よりよく老いる”という  
生き方をもとめて

—認知症と歩む人、家族、地域の現在—

上記のテーマで、9月21日(日曜日)に鳥栖市民文化会館で第3回佐賀県認知症県民公開講座を開催しました。3回目の認知症県民公開講座ですが、肥前精神医療センターが担当するのは初めてです。この企画は佐賀県内4ヶ所の認知症疾患医療センターが毎年持ち回りで開催することとなっており、3回目を当院が担当することとなりました。

県民公開講座と名打っている通り、講座の対象者は一般県民です。医療や福祉と関係がないところで生活している一般県民の方々に、認知症のことを理解してもらうことを目的とした研修会です。そのためには人々の関心が持てる内容とし、分かりやすく、参加者に役に立つ内容にしなければならないと努力しました。

第1部は「MCIという生き方 ～認知症に備えるために～」と題して、橋本学先生が軽度認知障害に焦点を当て、早期発見と早期治療の必要性について話しました。第2部はシンポジウム形式で地域連携について検討しました。シンポジストは鳥栖市内で開業している小柳毅先生、地域包括支援センターで活躍している社会福祉士の執行聖子さん、認知症疾患医療センターから私(横田)が発言しました。現時点では地域連携がうまくいっているとは言えませんが、それぞれの立場から連携を深めていくことで、地域の認知症ケアのレベルアップが図れ、認知症の患者さんが住み慣れた地域で末永く暮らしていけることを確認しました。第3部ではトークセッションとして患者さんの家族2人から体験を話してもらいました。認知症家族の会の野口佳代子さんと当院の杠岳文院長です。家族が認知症になった時に、家族として何を考え、どう行動したかの実体験を話していただき、認知症患者の方への接し方を考えました。

参加者は医療関係者29人、行政・福祉関係者87人、一般県民156人、合計272名と多数の方に参加していただきました。参加者からの感想は、参考になったという意見とともに、もっと詳しいことを知りたいという意見も多く、認知症への関心の高さを示すものでした。この一般県民の方々の要望に応え、認知症になっても安心して暮らしていける地域を作っていくことが当院、認知症疾患医療センターの役割だと再認識した公開講座でした。



認知症県民公開講座看板



県民の方が何故か  
看板の写真を撮っていました



左から執行先生、小柳先生、杠院長、橋本先生



左から杠院長、野口先生、橋本先生



会場の様子

# よくわかるシリーズ

## 子どもの発達障害について



心理療法室長 中山 政弘

最近、テレビや本のタイトルでも「自閉症スペクトラム障害」「注意欠如多動性障害」「学習障害」などの発達障害という言葉を目にする機会が多くなりました。新しい場所に行くことをとても嫌がったり、同年代のお友だちとのやり取りが難しい、活動への集中が続かないといったお子さんを前にして、親としてどう育てていいか悩んでいる方も多いのではないのでしょうか。

発達障害は脳のタイプの一つであるという考え方があります。私たちはそれぞれ得意なことや苦手なことがあります。それは脳のタイプとして得意ということになるのです。例えば、頼まれたことを聞いて覚えておくことが得意な脳のタイプの方はそのまま聞いて覚えておくと思いますが、目で見たことを映像として覚えておくことが得意な脳のタイプの方は、耳で聞いたことを一度メモなど目に見える形で残してから覚えておく方がいいのかもしれませんが。

当院の子ども外来では、私たち心理療法士が来ていただいたお子さんに対して、知能検査などの心理検査や遊びなどの関わりを通してお子さんの育ちを探っていきます。検査で行う質問や遊びの中でのスタッフとのやり取りの中で、お子さんが持っている得意なところや苦手としているところを明らかにしていきます。また、遊びを通して関わっていく中でどのようなコミュニケーションを行っているのかということについても明らかにしていきます。そしてこれらの内容と、保護者の皆様からお伺いしたお子さんのこれまでの育ちについてお伺いした内容を総合して、お子さんの脳のタイプを明らかにしていく作業のお手伝いをさせていただいています。お子さんの脳のタイプを明らかにしていく中で、保護者の皆様が育てにくさを感じられていたら、それが脳のタイプのどのような部分と関係しているのかということや、これからいろいろなことを学んでいくためにはどのような環境が必要なのかを一緒に考えるお手伝いをさせていただいています。

また私たち心理療法士は、継続して子どもたちの育ちを一緒に考えていくという意味では、遊び（プレイセラピー）やお話（心理面接）を通して、お子さん自身が人と関わっていく中で様々な成長を促すような関わりを行っていくこともあります。様々な形を通してお子さんのコミュニケーションの練習や、自分の気分の波をつかむ練習を行うこともあります。

また、保護者の皆様とも実際に、お子さんの育ちを応援する方法についても一緒に考えていきます。当院では「お母さんの学習室」という、子育ての技術を学ぶプログラムを開催しております。発達障害をお持ちのお子さんに対してどのようにできることを増やしていくのかということについて3か月間、講義やご家庭での実際の取り組みを検討していくことで、一緒に考えていくプログラムです。

当院の子ども外来では、子どもの発達障害に対して、以上のような関わりをさせていただいております。



※写真はイメージです



# 依存症に苦しむ若者たち

(NHKテレビ「九州沖縄ニュース」)

平成 26 年 10 月 24 日にNHKテレビの「九州沖縄ニュース」で放送されました危険ドラッグの特集番組について、その一部をご紹介します。

編集部



## ■ ナレーション

「佐賀県にある肥前精神医療センターです。この日行われていたのは、薬物の依存症患者を対象にした治療プログラム。最近増えているのが危険ドラッグの依存症患者です。」

「危険ドラッグを使って救急搬送されたり、家族に促されたりして次々に病院を訪れ、今では薬物依存症の3割を占めるまでになりました。」

「治療プログラムでは悩みを分かち合い、薬物を断ち切るためのアイデアを出し合って依存の感情から抜け出す事を目指します。」



「危険ドラッグの依存症とはどのようなものなのか、29歳の男性が取材に応じました。」

## ■ 29歳男性

「とにかく安いし、手軽に手に入る、最高だこれ、なんておもしろいんだ。悪いことをやっているなんていっさい考えないですね。」

## ■ ナレーション

「男性が使っていた危険ドラッグです。大麻に似た成分が含まれ意識障害を引き起こす恐れがあります。手を出した切っ掛けは3年前、当時は会社に勤めていましたが失恋や仕事のストレスを紛らわすため、軽い気持ちで始めたと言います。」

「ところが高揚感に包まれ五感が冴えわたるような感覚になったという男性、一時的にストレスから解放されました。しかし刺激に満足できなくなり、使う量と回数が増えていきました。」



## ■ 29歳男性

「一ヶ月にいっ

ぺんとかだったのが、1週間にいっぺん、3日にいっぺんと、気がついた時にはもう止まらない状態になった。」

## ■ ナレーション

「しだいに手足が震え歩けなくなるといった症状が出始めました。そして去年の夏、男性は公園で危険ドラッグを吸った後、急に意識を失い病院に運ばれました。一命は取り留めましたがそれでも危険ドラッグを止めることはできませんでした。」



## ■ 29歳男性

「悪魔の部分がささやいてきますからね。一回使ってスッキリしようぜ、ぐらいでドンドンハマって行って、何でもいから取り続けなければいけないんだと、いわゆる強迫観念に襲われてきますね、怖いですよ本当に。」

## ■ ナレーション

「男性は家族に促されて今月、肥前精神医療センターに入院、ようやく危険ドラッグを断つ決意を固めました。」

「厚生労働省の研究班で危険ドラッグの実態調査を行っている精神科医の松本俊彦さんです。松本さんたちの調査で危険ドラッグを含む薬物依存症の治療が受けられる専門の医療機関は全国に15ヶ所、九州には2ヶ所しか無いことが判りました。」

「警察などの取り締まりだけでなく、依存症患者の回復の為の支援が不可欠だと松本さんは指摘しています。」



## ■ ナレーション

「軽い気持ちで初め、依存症に陥る危険ドラッグ、撲滅のためには治療体制の充実が求められています。」

## NHK福岡放送局記者による危険ドラッグについて 取材内容の一部をご紹介します

(NHKの同意を得ております:編集部)

記者：武田善宏 対応者：精神科医長 武藤岳夫  
日時：平成 26 年 9 月 24 日 14:00 ~ 14:40  
場所：当センター応接室



### ●記者

治療プログラムというのは、こういったものでしょうか？

### ●武藤

今、全国で広まってきている認知行動療法プログラムが中心になります。

### ●記者

それは具体的にどのような事をされるのですか？

### ●武藤

まずは薬物依存症というのがどういう病気なのか、病気の特徴を知ってもらうという知識の部分ですね。勿論薬物によってどういう症状が起こって、依存というのはどういう特徴があつてとか、そういう事を知っていただく事が第1段階です。

実際依存症になった場合には止めなければいけません、自分の意思で気合いで止めるというのはいきませんので、実際どういう方法を使って止めていくのか、自分自身が薬物を使うまでには、どういうプロセスがあるのか、自分自身が薬物に対してどう向き合っているのか、薬物に対する欲求が生じた時にどう対処しているのかとか、その辺が少しずつズレてきて、結果薬物を使ってしまふ、あるいは使う事が止められないという状態になっていると思います。使うという行動を変えるためにはその前のプロセスが重要ですね、自分自身が使いたくなる状況とか、考え方、刺激への対処であるとか、一つ一つテーマを決めて考えてもらって、あるいは集団でやる場合には他の人の意見を聞いて、というような事を繰り返していく治療方法です。

### ●記者

なるほど、基本的には先生が一对一で話したりとか、あるいは集団でディスカッションみたいな感じでやるということですか？

### ●武藤

そうですね、基本的には集団でやっています。

### ●記者

何人かでそれぞれのケースを考えたりとか、発表したりという感じですか？



●武藤

そうです。ワークブックがありますので、そのテーマ毎に幾つかの質問があつて、それに対して自分の考えを言ってもらったり、他の人の意見を聞いたり、とかを繰り返しています。

●記者

なるほどですね。外来だと定期的に週に何回とか来られるんですか？

●武藤

プログラム自体は週に2回やっていますが、週に2回フルで参加される方は少なく、週1回とか2週間に1回とか、ご自身の外来受診日に合わせてプログラムに参加するというような方が多いですね。

●記者

プログラムは入院の方も外来の方も一緒にされますか？

●武藤

そうですね。そのプログラムは共通でやっています。

●記者

それは日によってテーマが変わってくるんですか？

●武藤

えっと、月曜と木曜日にそれぞれ12回ずつあって、毎回テーマは違います。今は24回で1クールという形でやっています。

●記者

入院の方は24回が終わったら、また継続するんですか？

●武藤

そうですね、退院した後、また外来でやっていただく事になります。

●記者

プログラムっていうのを取材したいなと思いますが、具体的にどういふ話し合うような感じになるんですか？

●武藤

さっき認知行動療法の説明で申し上げたような、その中のテーマの一つですね、例えば欲求にどう対処しますか？とか自分自身の考え方を見直してみようとか、実際に使いたくなかった時に誰に相談するかとか、そういったところのテーマを決めて、後はご自身の、まあ木曜日はそっちの方が多くて、自分自身の考え方とか相手とのコミュニケーションの取り方とか、その辺に焦点を当てて自分自身のコミュニケーションのパターンを知ろうとか、相手の良い点を見つけてみようとか、そういった所ですね。

●記者

ああ、なるほどですね。木曜日はそういう自分の事についてなんですね。

●武藤

そうですね。その方が中心ですね。月曜日の方が知識、一般的な心理教育の部分が比較的多いですね。

●記者

なるほど。なるほど。月・木にそれぞれ受ける人も違うという形ですね。

●武藤

そうですね。入院の方はそれぞれ受けておられます。

●記者

ちなみに家族の人とかは参加したりするんですか？ それともプログラムはご本人だけですか？

●武藤

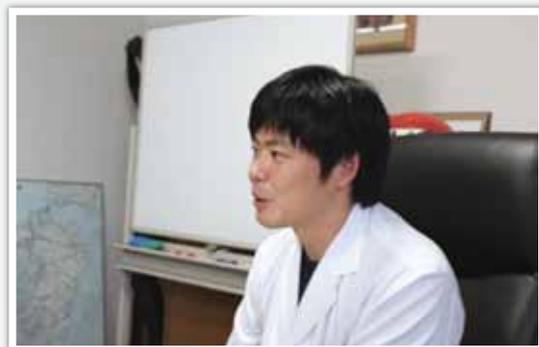
これは本人だけです。家族の方は家族向けのそういう教室を別にやっています。

●記者

どういう風に本人に向き合うかというような事ですか？

●武藤

そうです。ご家族にも病気のことを知っていただきたいし、そこが分からないとどうしてもご本人にどう対応してよいか、というのかなか見えてこないところがあるので、その病気の教育の部分と、実際にご本人に対してこういう時にどう対応するかとか、その辺を少し考えていただいたり、実際にそういう体験をした方に話を聞いてもらったりしています。



取材記事全文(約6,800文字)はこちらどうぞ。→

<http://www.hizen-hosp.jp/pdf/hizendayori/NHK20140924.pdf>

(このファイル容量は195kbです。)





教育研修部は、平成 22 年 10 月、当院に医師養成研修センターが設置された際、医師養成研修センター長の下、院内の所属部門や職種を越えて、多職種かつ横断的にセンターの活動に協力する組織として設けられた組織です。医師養成研修センター（以下「センター」という。）設置の目的は、広く医師を募り、教育と研修事業ならびに研究活動を、他の多くの職種と連携して活発に行い、これらを通して研修医ならびに専修医に適切な指導と支援を行い、併せて指導医の成長を促し、引いては精神医療のみならず社会に広く貢献し得る優れた人材を育成することを目的としています。教育研修部はこの目的を果たすために、学習・活動される方々の支援を行っている組織です。

教育研修部の主な活動場所である医師養成研修センターの活用状況および教育研修部が運営支援に携わっている主な研修についてご紹介いたします。

院内外を問わず多くの方々にご利用頂いている医師養成研修センターは今年設置後 4 年目を迎えました。平成 25 年度の医師養成研修センターの利用者数は、延約 18,000 人 / 年と前年度より約 5,000 人増え院内外においてもなくてはならない施設となっています。

利用は研修だけに止まらず、平成 23 年 2 月には、当院が担当施設となった日本医療マネジメント学会第 10 回佐賀支部学術集会の会場としても多くの皆様に来場頂きました。

部屋別	年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度 (11月末現在)
	大ホール (1F)	利用件数	55	50	28
	延利用人数 (概算)	2932	2774	2885	1684
セミナー室 (2F)	利用件数	160	212	258	102
	延利用人数 (概算)	3308	4545	4122	1694
研修室 2 (2F)	利用件数	185	168	292	127
	延利用人数 (概算)	3407	2504	3608	2424
大 3・4 会議室 (3F)	利用件数	285	274	418	204
	延利用人数 (概算)	5106	4015	7608	4393
合 計	利用件数	685	704	996	474
	延利用人数 (概算)	14753	13838	18223	10195

医師養成研修センターおよび当施設で行っている研修等についてその一部を紹介します。

以下は例年定期的に開催している主な研修です。

開催時期	主な研修名	院外からの受講者数
3 回 / 年 (6・11・2 月)	包括的暴力防止プログラム研修 (4 日間)	計約 150 名
7 月	ブリーフ・インターベンション & HAPPY プログラム研修	約 100 名
	精神看護研修 (5 日間)	約 100 名
10 月	肥前精神医学セミナー (2 日間)	約 30 名
	認知症ケア研修 (4 日間)	約 100 名
11 月	アルコール・薬物関連問題研修 (3 日間)	約 100 名
3 月	司法精神医学研修	約 100 名

他に、1 回 / 週の学習会 (クルズス)、5 ~ 6 回 / 年の肥前セミナー (医局主催)、精神科集談会、TV 看護セミナー、院内職員を対象として開催している 4 回 / 年の BLS (Basic Life Support) 講習会でも活用されています。さらに、デイケアの患者さんのレクリエーションや地域の皆様にも広くご利用いただいています。



医師養成研修センター 【正面】



【1階研修室1 180席収容】



1階研修室 講演の様子

医師養成研修センターの2階の研修室には、平成21年2月に設置された“ITを用いた多施設共同医師臨床研修システム（TV会議システム）”があります。これは、地域・医療格差を乗り越えて、NHQのスケールメリットを生かして研修の質を高める仕組みです。現在、全国10カ所を結んで、学習会や講演会症例の検討、研究会議等で活用され、医師に限らず院内全部門で活用され職員の学習や他施設との情報交換に大変効果的なツールとなっています。

H26年12月現在 TV会議システム参加施設は10施設です。



今後、NHQやまと精神医療センター、NHQ北陸病院、NHQさいがた医療センター、NHQ天竜病院が参加予定となっています。

	施設名
1	NHQ久里浜医療センター
2	NHQ花巻病院
3	NHQ琉球病院
4	NHQ東尾張病院
5	NHQ小諸高原病院
6	NHQ賀茂精神医療センター
7	NHQ菊池病院
8	NHQ肥前精神医療センター
9	NHQ榊原病院
10	一般財団法人福島県精神保健福祉協会 ふくしま心のケアセンター いわき方部センター

この他に医師養成研修センターには、研修室3室、宿泊用施設5室、研修医室、臨床研究部長室、教育研修部事務室等があります。名称は医師養成研修センターですが、院内外多職種の方々の学習施設としてこれからも多くの皆様にご利用頂ければと思います。教育研修部は、皆様が快適な環境下で学ぶことができるようこれからも支援をしていければと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



## 平成26年度 広域医療搬送訓練に参加して

西5病棟副看護師長 於保 雅子  
南3病棟副看護師長 梶原 宏造

8月30日、南海トラフ巨大地震を想定した広域医療搬送訓練が行われ、佐賀県 DPAT(災害派遣精神医療チーム)先遣隊として当院から4名(医師1名、看護師2名、業務調整員1名)が参加しました。広域医療搬送訓練とは、防災の日(例年9月1日)に合わせて、内閣府が実施している訓練です。これまでは DMAT(災害医療派遣チーム)訓練の一環として行われ、医療機関、行政、自衛隊などの多くの関係機関と協働して、災害が発生した直後の医療体制の構築、初期活動について訓練を行うもので、今回から

DPAT も本訓練に参加することとなりました。



訓練後の一枚



本部の様子

私達は宮崎県 DPAT 先遣隊が統括をする、宮崎県庁内の DPAT 活動調整本部の支援に入り活動しました。訓練に参加して、災害時における精神科医療の役割の理解や、情報伝達方法の確保(衛星電話、トランシーバー、メールなど)、本部に入る情報の優先度の選定・調整していくことの重要性を改めて学ぶことが出来ました。その中で、看護師に求められていることをご紹介します。第一に多職種のサポートです。DPAT 先遣隊活動では、医師・業務調整員の補助など職種に捉われず活動する部分があり、お互いに情報共有して連携を強化する必要があります。「誰かがしてくれる」ではなく、「自分が出来ることを実行する」が大切です。第二に看護師としての専門性を発揮するためにも、日々の看護実践での経験を積み重ねることです。日々実践している患者様との関わり、看護過程、業務の調整、他職種との連携といったことは災害医療においても行います。看護実践の経験を重ね、災害医療の学習・訓練を行い、融合させ意識や技術をより向上させることが大切です。



衛星電話を使用し、災害対策本部と連絡中

27年2月に、当院で「第1回九州地区合同 DPAT 研修会」が開催される予定です。今後の課題でもある DPAT 隊員の人材育成を行っていき、他職種のサポートとして自分に出来ることが実行できるように学習を深め看護実践を積み重ねて、チームの一員として迅速に活動できるように頑張りたいと思います。



各所からの連絡を受け、クロノロジーを作成



非常食の試食

看護に引き続き、業務調整員の役割をご紹介します。

## 災害現場でのロジスティクス



佐賀県DPAT先遣隊  
業務調整員 梅山 佑輔

1

## ロジスティクスとは？

ロジスティクス【logistics】

- 兵站（へいたん）：戦時部隊の後方において、人員・兵器・食糧などの前送・補給にあたり、また後方連絡線の確保にあたる活動機能
- 企業が必要な原材料の調達から生産・在庫・販売まで、物流を効率的に行う管理システム

必要な資源を必要な場所に  
必要な時期に届ける  
=ロジスティクスの基本

2

## ロジスティクスとは？

『災害派遣精神医療チーム（DPAT）活動要領』には

- ・業務調整員（ロジスティクス）：連絡調整、運転等、医療活動を行うための後方支援全般を行う者

<1.2 DPAT各班の構成>

- ・各班は、被災地の交通事情やライフラインの障害等、あらゆる状況を想定し、交通・通信手段、宿泊、日常生活面等で自立している必要がある。

<1.1 DPATの定義>

3

## 被災地ってどんなところ？

- ・電気なし
- ・水道なし
- ・ガスなし
- ・食糧なし
- ・宿泊施設なし
- ・お店なし
- ・燃料・ガソリンなし
- ・通信なし

→ **ロジスティクスが必要！！**

4

## ロジスティクス要員はなぜ必要か？



医療支援ニーズ ← 出動！ → 医療チーム

現地の状況  
ニーズ・どう対応する？

関係機関との連携は  
どうやって？

現場まで  
どうやって行く？

チームの生活環境  
水・食糧はどうする？

**ロジ担当として  
医療活動以外の  
食を支える**

5

## 被災地でのロジスティクス

災害のマネジメントに必要な活動

- 通信の確保
- 情報の収集・記録・伝達・共有

**情報**

- 関係機関との調整
- 資源の確保

**資源**

- 資源の移動/輸送
- 活動現場の環境整備（活動・生活）

⇒ **資源と情報の管理**

6

## 被災地でのロジ要員の役割

### ①資源の管理

- ・資源の管理：
  - 資源を把握・確保・維持・移動/輸送
- ・扱う資源
  - 人：自チーム、所属組織、他機関
  - モノ：活動及び生活に関わる資機材・物品
  - ・お金
    - 移動手段・輸送手段
    - 環境：活動環境・生活環境に関わる場所、動線

7

## 自チーム資源(人・モノ)の管理

自チーム資源(人：隊員、モノ：資機材)を把握・確保・維持・移動/輸送

管理方法	資源	具体的な作業
把握	隊員	現状の数・量の把握、必要数・量の把握
	資機材	把握
確保	隊員	応援要請
	資機材	調達
維持	隊員	安全管理、隊員の健康管理、食事手配、休息場所・宿泊場所の確保・整備
	資機材	電源・燃料・消耗品等の確保
	隊員	移動手段の確保
移動/輸送	隊員	移動手段の確保
	資機材	輸送手段の確保

8

## 被災地でのロジ要員の役割

### ②情報の管理

- ・情報の管理
  - 通信の確保
  - 情報を収集・記録・伝達・共有
- ・扱う情報
  - 資源に関する情報
  - 需要に関する情報

9

## 通信の確保

- ・災害に強い複数種の通信手段を確保
  - 衛星電話
  - 無線機
  - 災害時優先電話
  - 一般の携帯電話
- ※通信キャリア・Googleの衛星エリアアップの活用
- ・使用者を考慮した通信手段を確保
  - ①チームメンバー間 ②チーム~関係機関

**機材の確保とともに、ロジ担当者の使用方法の習熟が重要**

10

## 自チームの情報管理

- ・自チームの活動状況の記録
  - 時系列活動記録(クロノロジー)
  - 画像・動画
- ・時系列活動記録(クロノロジー)
  - 活動隊：ロジ担当が自身の手帳・メモ帳に記録
  - 本部：ホワイトボード等に記録

時刻	発信者	受信者	内容

11

## 時系列活動記録(クロノロジー)



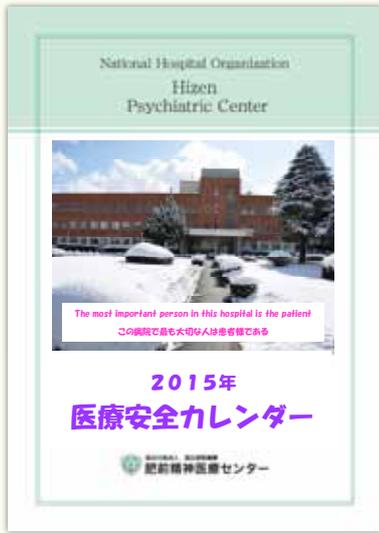
12

## 最後に

災害現場という厳しい環境下で、チームの医師・看護師がどれだけ力を発揮できるかは、そのチームの**ロジスティクスの腕次第！**

13





# 2015年 肥前精神医療センター 医療安全カレンダー

医療安全管理係長 森 栄子

職員の皆さんから医療安全の標語と写真を募集して、2015年医療安全カレンダーを作成しました。

職員の医療安全に対する思いが詰め込まれています。  
ご協力ありがとうございました。



\* 仕事でも心のゆとりを大切に



\* 見たつもり つもり積もって事故のもと



\* その違和感事故につながる  
小さな芽



\* ふり返ろう初心の気持ち大切に



\* 自動施設 分かっていても 手で確認



\* 床濡れは転べと悪魔の誘い水



\* ホウレンソウ みんなでしっかり育てよう



\* さあ仕事 医療安全 スイッチON



\* おかしいな 感じたときに再確認



\* ヒヤリハット気づいた時が変わり時



\* 思いこみその判断が事故のもと



\* 忙しい 抜いた一手が大惨事

## 第68回 国立病院総合医学会に参加して

南3病棟看護師 青山 瑞穂

11月14～15日に、パシフィコ横浜において第68回国立病院総合医学会が開催されました。今年は口演に挑戦し、「強度行動障害による他害に対する取り組み—疾患の理解を深めた上での関わりと構造化の活用—」と題し発表を行いました。なんと、ベスト口演賞をいただくことが出来ました。私一人だけでは決して成しえなかったことで、病棟のスタッフや他職種が一丸となり全員で統一した取り組みに協力してくれたこと、事例をまとめるにあたり病棟師長をはじめたくさんの方々から指導をいただけたことによるものです。私を支えてくださったすべての方に感謝申し上げます。今後も病棟の看護の発展に貢献できるよう、努力していきます。

記念品の中身は・・・  
お菓子でした。



第68回国立病院総合医学会会場パシフィコ横浜



## 第19回日本デイケア学会で 「ふまねっと運動」を紹介してきました!

作業療法士 大黒 陽蔵  
作業療法士主任 中野 良子  
デイケア担当医師 久我 弘典



平成26年9月18日～19日に東京で開催された第19回日本デイケア学会で、大黒陽蔵作業療法士が、「ふまねっと運動が精神科デイケア利用者へもたらす健康に関する意識の変化」を発表してきました。

「ふまねっと運動」とは、2004年に考案された、歩行機能の改善と集中力向上のためのプログラムです。50cm四方のマスを8行×3列、合計24マスの5cm幅ネットを用い、そのネットを踏まないようにステップを踏む簡単な運動です。当院のデイケアでもプログラム「もみじクラブ」の一環として取り入れています。平成25年度は、35名の利用者が、転倒リスク、ステップの習得のしやすさ別にわ

かれ、「ふまねっと運動」に参加しました。施行前後の身体機能評価・注意機能評価の結果から、「ふまねっと運動」は、精神科リハビリテーションにおいても身体と注意機能の両方に効果があることが示唆されました。さらに、本プログラムに参加した方の中には、日常生活でも健康に対する新たな取り組みを自ら考えるようになり、「つまずきが少なくなった」との感想も多く聞かれています。

当発表では、「ふまねっと運動」を精神科リハビリテーションに導入したことに興味をもつ聴講者がとても多く、発表後も活発な議論がなされました。適度な運動は、メタボリック・シンドローム防止など身体機能の改善だけではなく、脳機能を改善することが過去の研究結果からもよく知られています。読者のみなさんも、デイケアの運動プログラム「ふまねっと運動」に参加してみませんか。

(文責：久我弘典)



## 第15回 肥前音楽祭が10月に開催されました 作業療法士 中里 あゆみ



1 デイケアの患者さんによるトーンチャイム

午前の第1部にステージパフォーマンス、午後の第2部にはゲスト演奏がありました。

ステージパフォーマンスでは、各病棟による息のあったダンスや演奏、個人による心のこもったピアノ演奏やカラオケなど、それぞれに素晴らしいパフォーマンスを披露してくださいました。そして今年の院長賞は、デイケアによる「トーンチャイム」の演奏が選ばれました。

ゲスト演奏では『三線ロビーナ』の方々が、沖縄の民族楽器「三線」の温かい音色に合わせた演奏、優しい歌声を披露くださり、鑑賞されていた皆さんもとても楽しまれている様子でした。

## 平成26年度 肥前文化祭が開催されました 作業療法士 国広 はるな

12月9日に肥前文化祭が開催されました。今回も多くの素晴らしい作品が展覧され、西3病棟の「ザ・佐賀」が院長賞を受賞しました。また、午前中は表彰式と南2病棟・スタッフによるステージパフォーマンスがあり、素敵な歌声と演奏で盛り上がりました。午後は模擬店の出店があり、各病棟・部署から、たこ焼き、マフィン、輪投げなど、工夫を凝らした販売をおこない多くの方で賑わいました。



院長賞「ザ佐賀」



表彰式



職員パフォーマンス

## 重症心身障害病棟合同運動会を実施して 保育士 山田 彩緒里



10月9日(木)に重症心身障害病棟の運動会が開催されました。南3病棟と南4病棟の合同開催に加え、患者様はもちろん、ご家族や学校の先生方など多くの方に参加して頂き大変な盛り上がりを見せました。今年3月に新設された療育訓練棟で行われ、広い会場を使って様々な競技を行いました。なかでも、動く重症心身障害の方々ならではの競技「三輪車競争」は勝敗を分ける白熱した戦いになりました。来年度も今年に負けない運動会にしたいと思います。ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。



## 佐賀県精神保健福祉大会にて

作業療法士 坂井 紗織

平成 26 年 11 月 25 日の火曜日に伊万里で開催された佐賀県精神保健福祉大会で作品展示を行いました。病棟や中央の OT 活動で作った作品や、個人で作った作品を、肥前の展示スペースに展示しました。

沢山の方が作品をみて感想を伝えてくださったり、作り方を聞いてこられたり、興味を持ってみておられましたよ。



## 佐賀精神科病院親睦ソフトボール大会に参加して

東4-1 療養介助専門員 堀江 裕介

9月23日(祝)、佐賀市立スポーツパーク川副にて、佐賀県下16の精神科病院が一挙に集まり、「佐賀精神科病院親睦ソフトボール大会」が開催されました。

肥前精神医療センターは、野球部を中心に多職種でチームを編成し、毎年この大会に臨んでいます。今年も20代～50代の精鋭達が揃い、応援に駆けつけてくれたスタッフの声援のもと熱戦を繰り広げました。

予選パートを2勝無敗と好発進し首位で突破したチームは、決勝トーナメントもその勢いそのまま素晴らしいチームワークと集中力で勝ち続け、結果4戦全勝で見事ブロック優勝を果たしました!!

ここ9年は1勝しか出来ず悔しい思いをした年もありましたが、念願叶っての優勝ができ、参加者一同喜びを分かちあいました。

大会参加にあたり、ご協力・ご支援頂いた皆様、ありがとうございました。



表彰状



優勝トロフィー



記念撮影



## 吉野ヶ里ふるさと炎まつり

南1病棟看護師 坂元 智弘

10月25日、第17回吉野ヶ里ふるさと炎まつりに当院から看護師2名が救護班として参加しました。活動としては、役場の保健師の方と3人で救護所待機役と会場の見回り役を交代で行いました。

野外イベントには絶好の小春日和でした。今年は土を盛り上げ芝生で引き詰められた自然美溢れるステージが新設されており、小中学生達の躍動感あふれる演奏やダンスパフォーマンス等で会場は次第に盛り上がり、巨大火起こし機も今年は着火が成功し更に会場は盛り上がりを見せました。また、屋台や物産店も数多く出店しており、昼頃になるにつれて賑わいが増して売り手の声も一段と大きな声となり大盛況でした。昨年と比べ来場者が多かった様ですが、怪我人や体調不良者は無く私達の役割は無事に終えました。今後も救護所を応援し、少しでも地域に貢献していくことで地域との結びつきを大切にしていけたら良いと思いました。



## 職場紹介 しらゆり保育園

しらゆり保育園長 北島 環美

# 太陽と土と水と人にまみれて大きくなあれ!!

昭和52年 園児13名 職員4名。旧看護実習生宿舎一部を改造し、産声を上げたしらゆり保育園も、多方面からのお力をお借りする中で約280名の卒園児を送り出すことができました。

現在 園児56名 職員11名の体制の中「人との関わる力の育み」を大事にする保育を特に意識して園全体で取り組んでいます。

これから赤ちゃんを…とお考えの職員の皆様。

しらゆり保育園をのぞきにおいで下さい。元気な園児と職員がお待ちしております。



製作活動①



クリスマス



節分



園児で園植え(稲刈りもやりました)



味噌作り



夏祭り



東脊振小学校のプールをお借りして



かわいい!!



そろそろ出番

# 私の趣味 「競技ダンス」

医師 釣井 英彦

皆さんこんにちは。私のしていた競技ダンスについてお話しします。競技ダンスとは社交ダンスに競技性をもたせ、競技会において技術や芸術性を競い合うダンスです。男性が燕尾服を着て女性がドレスを着てホールドして踊るスタンダードと、男性と女性とがタイトなコスチュームを着て手と手でコンタクトをとり合いフリーに踊るラテンアメリカンとがあります。私はスタンダードをやっていました。私がダンスを始めたきっかけは、高校まで体育会系部活動やバンド活動をしていたので、スポーツと音楽と両方楽しめると思い、大学の部活動として始めました。やって良かったことは、ダンスを通して妻と知り合えたこと、ダンスを通して人体の動きに興味を持ち理学療法士になれたこと、そこからもっと人間について知りたいと思い医師になれたことです。今の自分があるのは競技ダンスのおかげだと思っています。



## ダルマヤ

栄養管理室長 吉丸 健一

ダルマヤは陸上自衛隊、目達原駐屯地近くのパン屋さんです。車で行くとうっかり通り過ぎてしまいそうなお店ですが、昭和の感じがあり懐かしい雰囲気漂います。朝7時に開店し、並ぶパンの種類は豊富で値段もお手頃です。焼きたての香ばしい香りが店内に漂い、購買意欲を高めます。私のおすすめはラスクとメロンパンです。ラスクの歯触りのよいサクサク感とメロンパンの甘すぎない味がたまりません。メロンパンはビックサイズがあるので、お見逃しなく。受け売りですが、ダルマヤの「絹食パン」は逸品らしく昼から東脊振の温泉で販売されているのだとか。懐かしい味を守りつつ、卸先のニーズにも応えてあるようで、近隣の同系列病院にも納めてあります。お近くを通られる際はぜひご賞味ください。



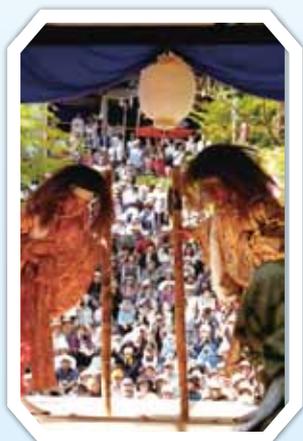
### ダルマヤ

佐賀県神埼郡  
吉野ヶ里町吉田  
667 丁目 60 番地



# 名所案内: 仁比山 (にいやま) 神社について

西3病棟看護師 亀川 加代子



県道 21 号沿いに仁比山神社の仁王門があります。仁王門に安置されている金剛力士像は神埼市の重要文化財に指定されており、仁王門から 2、3 百メートル進んだ所に仁比山神社があります。参道は、春は桜のトンネル、秋は紅葉が美しく多くの参拝客が訪れています。昔は病棟の行事の遠足でよく訪れた場所でした。もうその頃を知るスタッフもだいぶ少なくなりましたが…

仁比山神社の創建は 729 年で、古くから農業の神、山の神として崇敬され「山王さん」の名で親しまれており、境内には「山王さん」の使いとして沢山のお猿さんの像がおかれています。本殿の裏には神水（金剛水）が湧き出ています。この水は古くより山王さんの水として親しまれ、初宮詣の際には子供の口につけ長寿、無病息災を祈願されています。

仁比山神社では 12 年に 1 回申年に御田舞が奉納され、昭和 34 年に県の重要無形民俗文化財に指定されています。4 月の初申の日から 13 日間にわたって仁比山神社で行われる神事です。出演者は御田役者といわれ全て男性で、小学生くらいの男の子が鬘をつけ化粧をして着物をまとった姿は何とも言えない可愛らしさがあります。平安時代に始まったとされ、古式豊かな田打ちや田植えの所作が続き最後は勇壮な「鬼舞」で締めくくられます。この期間は県内外から多くの観光客が訪れ賑わいます。来年がちょうど申年になりますので今から楽しみです。

こんな歴史深いすてきな神社がすぐ近くにあります。一度訪れてみては如何でしょうか。





香取県医師会

## 目次

- P.1-2 ・年頭にあたって ～これからの10年を見据えて～
- P.3 ・第3回佐賀県認知症県民公開講座
- よくわかるシリーズ
- P.4 ・子どもの発達障害について
- P.5 ・依存症に苦しむ若者たち
- P.6-7 ・NHK福岡放送局記者による危険ドラッグについて  
取材内容の一部をご紹介します
- 肥前ニュース
- P.8-9 ・“教育研修部です”
- P.10 ・平成26年度広域医療搬送訓練に参加して
- P.11 ・平成26年度広域医療搬送訓練報告
- P.12 ・2015年肥前医療安全カレンダーを作りました
- P.13 ・第68回国立病院総合医学会に参加して
- P.13 ・第19回日本デイケア学会で「ふまねっと運動」を紹介してきました！
- P.14 ・第15回肥前音楽祭が10月に開催されました。
- P.14 ・平成26年度肥前文化祭が開催されました
- P.14 ・重症心身障害病棟合同運動会を実施して
- P.15 ・佐賀県精神保健福祉大会にて
- P.15 ・佐賀精神科病院親睦ソフトボール大会に参加して
- P.16 ・吉野ヶ里ふるさと炎まつり
- P.16 ・職場紹介 しらゆり保育園 太陽と土と水と人にまみれて大きくなあれ！！
- P.17 ・私の趣味 「競技ダンス」
- P.17 ・近所の名店 ガルマヤ
- P.18 ・名所案内 仁比山（にいやま）神社について

### ◆編集後記◆

新年明けましておめでとうございます。  
 1月5日の仕事始め式にて院長から今後10年間の将来構想（P1、P2「これからの10年を見据えて」参照）が示されました。  
 この構想の現実化に向けて職員一丸となって努力してまいります。  
 今年一年が患者さんにとって希望の持てる年でありますように、また職員の皆様方、読者の皆様方も実り多き年でありますよう祈念いたします。  
 本年もどうぞよろしくお願いたします。



## 患者の権利

1. 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利
2. 疾患の治療等に必要の情報を得、また教育を受ける権利
3. 治療法を自由に選択し、決定する権利
4. プライバシーが守られる権利
5. 常に人としての尊厳を守られる権利
6. 医療上の苦情を申し立てる権利
7. 継続して一貫した医療を受ける権利
8. QOLや生活背景に配慮された医療を受ける権利

## 患者の義務

1. 情報を提供する義務
2. 状況を確認する義務
3. 診療に協力する義務
4. 医療費を支払う義務

平成27年1月15日発行

編集・発行：広報委員会 委員長：橋本（喜） 副委員長：須藤、村川、葛原

委員：佐川、太田、宮下（聡）、久我（弘）、佐藤、白石、小坪、山口、前田、高木、岩崎、山崎（京）、霜村、江田、田中、宮崎、宮下、天野、林、中原、大庭

発行所：独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160 TEL 0952-52-3231 Fax 0952-53-2864 ホームページ <http://www.hizen-hosp.jp/>